

## 「加計学園問題」

国会は24日に衆院、25日に参院で予算委員会の中審査を実施する。安倍晋三首相の友人が理事長を務める学校法人「加計学園」（岡山市）の獣医学部新設計画に関し、集中的に審議する。6月18日の通常国会閉会后、初めて首相が加計問題について国会で説明する機会となる。

加計問題では、前川喜平前文部科学事務次官らが参考人として出席する。獣医学部新設を巡る官邸の関与について官邸側と前川氏の主張が食い違う中で、真相解明が進むかが焦点だ。

### 毎日新聞

安倍晋三首相は25日の参院予算委員会の閉会中審査で、友人の加計孝太郎氏が理事長を務める学校法人「加計学園」による獣医学部新設計画の把握時期について、前日の答弁を踏襲し今年1月20日だと強調した上で「申請段階で承知した」などとした過去の答弁に関し「おおびして訂正する」と述べた。山本有二農相ら3閣僚は、計画認定前の昨年8-9月、加計理事長の訪問を受けたと明らかにした。

安倍晋三首相の友人が理事長を務める「加計学園」が愛媛県今治市で獣医学部を新設する計画を巡り、参院に舞台を移した25日の閉会中審査で、政府側の答弁は不自然さを増し、首相が繰り返し返した「丁寧な説明」のないまま2日間で約10時間の審議が終了した。さまざまな疑問は解消されておらず、野党は説明責任を果たすよう求めている。

「急にご質問があり、混同したところがある」

獣医学部新設の事業者が加計学園だと1月20日まで知らなかった、と突然主張し始めた安倍首相は、過去の自らの答弁との食い違いについて釈明に迫られた。これに対し、民進党の蓮舫代表は（1）質問した野党議員は事前に通告している（2）政府が閣議決定した答弁書もある一など不自然さを指摘。「急な質問ではなかった。もう一度記憶を呼び起こしてください」と迫った。政府高官の一人は「首相にしか分からないが、『正式に』知ったのは1月20日ということなんだろう」と漏らした。

安倍晋三首相の友人が理事長を務める「加計学園」が愛媛県今治市で獣医学部を新設する計画を巡り、参院に舞台を移した25日の閉会中審査で、政府側の

答弁は不自然さを増し、首相が繰り返した「丁寧な説明」のないまま2日間で約10時間の審議が終了した。さまざまな疑問は解消されておらず、野党は説明責任を果たすよう求めている。

＜加計問題＞安倍首相、矛盾突かれ従来答弁「上書き」

＜加計問題＞安倍首相「丁寧」一転、言葉に詰まる

＜加計問題＞安倍首相、丁寧に強弁 「指示せず」の一点張り

＜加計問題＞逃げ切りを許すな 「お友達は優遇」「邪魔者は排除」 厚顔の

安倍官邸 ＜加計問題＞潔白、証明できず／集団無責任体制

「急にこの質問があり、混同したところがある」

獣医学部新設の事業者が加計学園だと1月20日まで知らなかった、と突然主張し始めた安倍首相は、過去の自らの答弁との食い違いについて釈明に迫られた。これに対し、民進党の蓮舫代表は（1）質問した野党議員は事前に通告している（2）政府が閣議決定した答弁書もある――などと不自然さを指摘。「急な質問ではなかった。もう一度記憶を呼び起こしてください」と迫った。政府高官の一人は「首相にしか分からないが、『正式に』知ったのは1月20日ということなんだろう」と漏らした。

#### 参院予算委員会での主な論点

1月まで加計孝太郎理事長から計画の話を開かなかつたと繰り返す首相。野党側は、その信用性を崩す質問を重ねた。共産党の小池晃氏は、松野博一文科科学相、山本有二農相、山本幸三地方創生担当相の3人が昨年8〜9月に加計氏と面会したことを確認。松野氏を除く2人は、計画に関しても話を聞いたと述べた。

閣僚の答弁を聞いた首相は、自身については「理事長とは昔からの友人で、陳情を受けることは一切ないという関係でやってきた。大臣と会うように言ったことは全くない」と強調した。だが、閣僚への陳情を重ねていた加計氏が、友人の安倍首相にだけは計画の話は一切しなかったのか――。小池氏は「こんなに次々に大臣に会えるのか」と加計氏の「優遇」ぶりも皮肉り、「これで国民が信じられるか」と批判した。

一方、2015年4月に今治市職員と首相官邸で面会した、と一部で報じられた柳瀬唯夫元首相秘書官。民進党の桜井充氏が「お久しぶり。前にお会いしたのは覚えてますか」と語りかけると、柳瀬氏は「7、8年前、食事を（一緒に）したのはよく覚えています」と笑みさえ浮かべた。

すると桜井氏は「それなら一昨年のごとは？」と切り込んだ。柳瀬氏は一転、硬い表情で「記憶をたどる限り、（今治市側と）会っていないと思う」と繰り返した。和泉洋人首相補佐官が「会っていない」と断言したのは対照的だった。

文科省内で見つかった新たな文書についても、野党側は追及を強めた。昨年11月9日に獣医学部新設の規制緩和が決まる前日、学園の計画に対する懸念が記されたメールが省内で送受信されていたことを示す内容だった。松野氏は「大学の設置認可の事前相談は従来受け入れている」と説明。だが、同省の前川喜平前事務次官は「（当時の）獣医学部は告示で、新設は認めないとなっている。申し出があってもお断りするのが通例」と述べ、規制緩和が「加計ありき」だったことをうかがわせた。

ただ、2日間を通じて政府側は総じて記憶に基づく答弁に終始し、真相解明にはほど遠いまま幕を閉じた。

参院予算委員会での主な論点

1月まで加計孝太郎理事長から計画の話を書き聞かなかったと繰り返す首相。野党側は、その信用性を崩す質問を重ねた。共産党の小池晃氏は、松野博一文科科学相、山本有二農相、山本幸三地方創生担当相の3人が昨年8〜9月に加計氏と面会したことを確認。松野氏を除く2人は、計画に関しても話を聞いたと述べた。

閣僚の答弁を聞いた首相は、自身については「理事長とは昔からの友人で、陳情を受けることは一切ないという関係でやってきた。大臣と会うように言ったことは全くない」と強調した。だが、閣僚への陳情を重ねていた加計氏が、友人の安倍首相にだけは計画の話は一切しなかったのか。小池氏は「こんなに次々に大臣に会えるのか」と加計氏の「優遇」ぶりも皮肉り、「これで国民が信じられるか」と批判した。

一方、2015年4月に今治市職員と首相官邸で面会した、と一部で報じられた柳瀬唯夫元首相秘書官。民進党の桜井充氏が「お久しぶり。前にお会いし

たのは覚えてますか」と語りかけると、柳瀬氏は「7、8年前、食事を（一緒に）したのはよく覚えています」と笑みさえ浮かべた。

すると桜井氏は「それなら一昨年のは？」と切り込んだ。柳瀬氏は一転、硬い表情で「記憶をたどる限り、（今治市側と）会っていないと思う」と繰り返した。和泉洋人首相補佐官が「会っていない」と断言したのは対照的だった。

文科省内で見つかった新たな文書についても、野党側は追及を強めた。昨年11月9日に獣医学部新設の規制緩和が決まる前日、学園の計画に対する懸念が記されたメールが省内で送受信されていたことを示す内容だった。松野氏は「大学の設置認可の事前相談は従来受け入れている」と説明。だが、同省の前川喜平前事務次官は「（当時の）獣医学部は告示で、新設は認めないとなっている。申し出があってもお断りするのが通例」と述べ、規制緩和が「加計ありき」だったことをうかがわせた。

## 朝日新聞

ただ、2日間を通じて政府側は総じて記憶に基づく答弁に終始し、真相解明にはほど遠いまま幕を閉じた。

25日の参院予算委員会閉会中審査で、安倍晋三首相は「加計学園」の獣医学部新設計画を「1月20日」に知ったとする24日の発言をめぐり、野党の攻勢を受けて過去の答弁を訂正するなど防戦に追われた。24日は「低姿勢」を貫いたが、この日は語気を強めて反論する場面もあった。

民進党の蓮舫氏は冒頭、「いま求められているのは丁寧な口調ではない。（計画を知ったのは）1月20日ではないのではないか」と追及。首相の6月の国会での「申請を出された段階で承知した」との答弁との矛盾を突いた。加計学園は1月10日に特区での新設を申請。同20日に国家戦略特区に認定された。6月の答弁の「申請段階」は1月20日ではなく10日になる。

首相は下を向いて手元の紙に目を落とし、「正確に言えば、申請段階ではなく『申請を決定する段階』で、それは10日後の1月20日。厳密さを欠いていた」とたどたどしく応じ、過去の答弁を訂正した。

すぐに蓮舫氏から「その答弁、無理がある」と突っ込まれると、首相は過去の答弁について「急に質問があったので混同した」と発言した。過去には複数

回質問を受けていた問題であり、野党席からは「いい加減だ」などとヤジが飛ばなど議場は騒然となった。ヤジを受け、首相は「それ以外にも何回か質問をいただいている。厳密さを欠いていた」と釈明。「おわびをしなければならぬ」と陳謝に追い込まれた。

共産党の小池晃氏も、首相の「1月20日」に知ったとの答弁について、「明らかかな虚偽答弁だ」と厳しく追及。首相は手元の紙に目を落とし、過去2回の自らの答弁を立て続けに読み上げたのに対し、小池氏から「もういい」と遮られた。しかし、首相は小池氏の声をかき消すように語気を強め、「(2回の答弁は)違うので申し上げておきたい」と反論して答弁を続ける一幕もあった。

学校法人「加計学園」が愛媛県今治市で計画している獣医学部の新設をめぐる文書について、[5日](#)日夕方、前川喜平・前文部科学事務次官が会見を開いた。

前川前事務次官は会見で「私が在職中に作成され共有された文書で間違いない。文科省の幹部に共有された文書で、自分も受け取った。ちゃんと捜索すれば出てくるはずだ。あったものはなかったことにできない」「証人喚問に出てもいい」とコメント。民進党の調査チームが示した文書と、朝日新聞が掲載した文書に記述がみられる「官邸の最高レベル」という表現については「官房長官か総理の事だと思った」と振り返った。

文部科学省内での調査の結果について松野博一文部科学大臣は16日の会見で「存在は確認できず」と結論づけている。前川「松野大臣が文書を見た可能性もある」「偽らざる気持ちを述べれば、大臣を含め、私の後輩も、ないものもあるものとしなさいといけないのが気の毒だ」と話した。

さらに特区の制定や大学設置の認定の経緯に関しては「農水省の協力もなく、基準も満たしていないにもかかわらず、極めて薄弱な基準で特区が制定された。公平公正な審査がなされなかった。文科省として負いかねる責任を押し付けられた。最終的には内閣府に押し切られた」「加計学園に文科省OBがいて、獣医学部よろしく、と言われた」と証言、その一方で「当事者として疑問を感じながら仕事をしてきた」「努力不足があったのは間違いない。押し切られた自分にも責任がある。事務方トップとしてお詫びしたい」と述べた。

加計学園の問題を巡る集中審議が25日は参議院で行われた。安倍首相が24日、加計学園が獣医学部新設を申請することを知ったのは「今年1月20日」と答弁したことについて審議が紛糾、野党の大きな追及材料になった。

民進党の蓮舫代表は、過去の答弁と矛盾し虚偽答弁ではないかとただした。

蓮舫代表「虚偽答弁なんですか。どれ（に対する答弁）が間違いで、どれが正しいんですか」

安倍首相「先ほど整理が不十分であったということでお話をさせていたいただいたところでございました。いわば加計学園と今治市ということで少し私も混同があったことはおわびをしなければならぬわけでございますが、その点について今私が答弁をさせていただいたこと（1月20日）が事実でございます」

安倍首相は過去の答弁で「加計学園と今治市と混同があった」と陳謝したが、蓮舫代表は「とても不誠実な対応だ」と批判した。また安倍首相は、親友の加計理事長から一切、話がないのは不自然だとの指摘に対して「そういう関係だから友人として長い付き合いができた」と強調した。

■2日間の集中審議が終わったが今後はどういう展開に？

民進党は「疑惑は深まった」として、加計理事長の国会招致とさらなる集中審議の開催を求めた。しかし、自民党は「必要がない」として即座に拒否している。28日にも自衛隊の日報問題を巡る特別監察の結果が公表される見通し。「信頼回復に向けて努力を積み重ねたい」と語る安倍首相が今後、どのような対応を取るのか。政権の帰す方を左右することになる。

いずれにしても日本の総理大臣が関係する疑惑だけに国民は関心が一層深まるばかりばかりだ。